

論文

齋藤秋圃研究 (一)

齋藤家資料について

橋 富 博 喜

はじめに

江戸時代後期、福岡秋月藩の御抱え絵師をつとめ、のちに太宰府の地において町絵師として活動した齋藤秋圃(明和五年?—安政六年)については、明治以降時々語られることがあっても、その詳細についてはほとんど触れられてこなかった。しかしそうした状況を憂いた許斐友次郎氏によって、戦前昭和八年(一九三三)新聞紙上においてその略歴のおおよそがはじめて紹介された。⁽¹⁾ 江戸時代後期筑前の絵師のひとりとして北部九州を中心に作品は多く存在するが、略歴については明確でなく、戦前から戦後にかけての秋圃に関する言及は、おおくがこの許斐氏の記事によるところであった。

しかし、昭和四十年代から五十年代にかけて八尋和泉氏による宗教文化懇話会での講演と『宗教文化』への寄稿、⁽²⁾ 緒方無元氏による秋圃作品を含む画集『郷土先賢詩書画集』の刊行などにより作品研究の糸口が開かれ、そして昭和五十六年(一九八一)、中野三敏氏の報告によりその画歴の前半生の姿が明らかとなった。⁽³⁾ その後小林法子氏によって平成五年(一九九三)「筑前絵師関係資料—齋藤秋圃略年譜—」がまとめられ秋圃研究の基礎的資料となった。⁽⁴⁾ こうした研究のなかで、平成十四年(二〇〇二)福岡県立美術館において「〔特別展〕—筑前

四大画家の時代—齋藤秋圃と筑前の絵師たち」と題する展覧会が開催され、秋圃の作品を目の当たりにすることができ、また江戸時代後期筑前の絵師たちの活動の一端を知ることができるようになった。この展覧会図録において魚里洋一氏は「齋藤秋圃研究史と町絵師雑感」を執筆され、これまでの秋圃研究の概要をしめされ、さらに「町絵師」のありようについても言及されている。

これらの研究によって齋藤秋圃の画事はかなり明らかになったといえる。しかし依然として問題点はおおくのこる。たとえば絵を習い始めた修業時代のこと、秋月藩での御抱え絵師としての仕事、さらにすでに許斐氏の記事のなかでも、小林法子氏ののちの論考⁽⁵⁾のなかでも、魚里氏も指摘されているのだが、齋藤秋圃作品がどこまで「秋圃の手になる」作品なのか等々の問題である。

こうした状況のなか、平成十五年春、齋藤家(太宰府市宰府二丁目)の住宅移築計画のなかでひとつの木箱に納められた資料が発見された。ここに紹介する齋藤家資料である。本資料はこれまで全く紹介されなかった資料であり、齋藤秋圃、そして子息梅圃の画業を知るうえで欠かせないものと考ええる。以下すこし整理しながら記していきたい。なお作品名のあとの括弧内は調査番号であり、五桁の数字であらわしている。

一 概要

齋藤家資料は、調査した件数でいえば一七三五件を数える。その多くは絵画修業のなかでえがいていった「画稿」^⑧であるが、なかには完成画との関連を強くしめす下絵や日常の風景をえがいた写生図などもあり、先人の作品を研究のために模写した作品もある。またこうした画稿とは別に、旅日記、書簡、住所録・備忘録などもあり、その生活の一端がしのばれる。もちろん画稿のなかには、賦彩の方法を示す色注や、留書も見受けられ、その画稿がえがかれた状況を示してくれる。以下すこし整理しながら見ていきたい。

(一) 年記のある資料

資料中、とにかくそのなかに年号を見ることができる資料を抽出してみる。画稿だけでなく文書関係も含み、七十八件を数える(表1)。表中文化四年(一八〇七)の作品までの年号は、先人のあるいは別人の作品に記された年号だと考えられる。齋藤家に関わる最初の作品は、『天満宮写生帖』(〇一六七七、図1、2)で、一冊に綴じられた三十枚の紙数をしめす。この冊子の表紙には「文化辛未之春写生」^⑨「齋藤藏所」の文字がみえ、なかには枯木の写生図がありそこに「第壱」から「廿九」までの数字が、また最後の頁には「□都／天満宮社内於□／宗休菴藏」と記されている。文化辛未年は文化八年(一八一二)であり、文化二年に秋月藩に召出され、翌三年の藩主黒田長舒による太宰府書画展覧会を経て藩の御抱え絵師としての地位が安定してきた時期である。太宰府書画展覧会出品の『旋龍図』を見いだせない今、本作品は秋圃と太宰府天満宮との関連をしめす最初の資料として

注目される。ただ齋藤秋圃が「齋藤」を名乗るのは文化十年のことであり、表紙に記されたふたつの墨書も微妙に書体がことなることから、「齋藤藏所」の文字のちに書き入れられた可能性もある。さらに最後の頁の「宗休菴」は梅圃の画号と伝えられているが、秋圃三男梅圃は文化十三年(一八一六)ころの生まれと考えられるので、梅圃の可能性は否定される。秋圃が「双鳩」を名乗ったことを考えておくべきか。

もうひとつ、齋藤家資料中しばしば「〇〇藏」の墨書を見るが、ここではその「藏」を、ほとんどはその作品の作者(筆者)と考えている。福岡藩御抱え絵師尾形家資料、久留米藩御抱え絵師三谷家資料には「〇〇主」の文字を見、それを作者に比定しているが、齋藤家資料中にはこの「主」の文字を見いだせず、おおくは「藏」である。秋圃が師事したと伝えられている円山応挙につながる国井応文、応陽の粉本に記された「藏」と同じ意味でとらえている。^⑩

年記のある資料をならべてみると、その作者として考えられるのは多くが梅圃である。たとえば文政十一年(一八二八)の『陶淵明帰去来図』(〇〇五九九、図3)を皮切りに、文政年間末から天保六年(一八三五)まで二十九件(他に一点その可能性がある)を数える。しかしこののち梅圃の署名を見ることがなく、江戸の最末期安政五年(一八五八)と文久二年(一八六二)の二点の作品にその名がふたたびあらわれる。先に考えた齋藤梅圃の生年からすれば、名前をおおく見いだす時期は梅圃の十三歳から二十歳ころまでの間であり、この期間に父秋圃についておおくの画事を学んでいたことの結果とも考えられる。

文政十二年(一八二九)の『松に孔雀図(断片)』(〇一二五〇)には、「齋藤秋圃」の墨書がみえるが、この「秋圃」の「秋」は、もとあつ

た「梅」の文字を消して記されている。さらにこの作品では、秋圃が用いたと伝えられる「韋行」の印章がその天地を逆にして四顆捺されている(図4)。もう一点文政十四年の《双鶴図》(〇〇四三九)には「秋圃」と「梅」の文字が、その文字の練習をするように記されている(図5)。これらのことはこの時期梅圃がさかんに画業の修練を積み重ねていた証左となろうか。

(二)「秋圃」および「炆圃」印

つぎに資料中に「秋圃」の文字や朱文方印「炆圃」印がある資料をあげてみる(表2、3)。まず絵画(画稿)の資料を取りあげる。このなかで秋圃筆の可能性が高い作品は《鍾馗図冊》(〇一六四二、図6)と《植物図冊》(〇一六四九、図7)である。前者は和綴じの紙数十一枚を数え、表紙に「葵所蔵」「鍾馗大長」の墨書と「炆圃」印が、さらに裏表紙に「炆圃」印がみえる。和紙の表裏に四十態の鍾馗を軽やかな筆さばきでえがきだし、その飄逸なところが秋圃の手になるものと思われる。何らかの手本があつて秋圃が写し、それを齋藤家の手本として保持していたものと考えられる。また後者《植物図冊》には正月から二月、四月、八月などの日付と花の名前、色注などが記される他「土筆／翁」(白文朱方印)と「炆圃」印が捺されている。紙数五十一枚を数えるが、描かれるのはこれも軽やかな筆さばきで、秋圃の時々の写生図とみて差し支えないと考える。このほか《墨梅図》(〇二七八)には「(墨書・略) 稼圃書画 秋圃蔵」の文字があり、秋圃が師事したとも伝えられる江稼圃作品の写しとも考えられる。

ただ先に「梅圃蔵」を齋藤梅圃の筆としたが、ここに「秋圃蔵」の署名のある作品一点《筍図(断片)》(〇〇八五五)と「齋藤秋圃」の

墨書のある作品二点《松に孔雀図(断片)》(〇一二五〇、前述)と《筍図(断片)》(〇一三三二)がある。《松に孔雀図(断片)》は先述したとおり梅圃の手になろうかと考えられるが、のこりの二点を齋藤秋圃の手に帰することができるかどうか検討を要する。

(三)「土筆／翁」印

白文朱方印「土筆／翁」は、齋藤秋圃の画号のひとつである「土筆翁」を印文としてもつ。「土筆」は、許斐氏の説くところによれば、「宮島滞在中木の枝を斬り、杖となし鹿の毛を集め筆となし杖頭に仕込んでこれを杖つき宮島を立ち去つて居る。これを自ら名づけて土筆と称してゐる」という¹⁷⁾。「土筆」を「ドヒツ」と読むのか、あるいは「つくし」と読むのかについては、許斐氏は秋圃が書いたとされる「土筆の記」を引用され「(ドヒツ)と読むのが本当である。尚ほ土筆の記末に書かれたのによると年毎の春の始めに書き始むるとあるからこの土筆は主として元旦試筆に用ひられたように思はれる」と記されている¹⁸⁾。ただこの号が筑前秋月に下つてからのものだとすれば「つくし」と読む方がかなつていとも思われるが、現在「土筆の記」は見いだせず、その真偽については確かめようがない。いずれにせよ齋藤秋圃の画号のひとつとして「土筆翁」があることは間違いない。

この印章が捺された資料が一二七件ある(表4)。ほとんどが「齋藤蔵」の墨書と「土筆／翁」印の組み合わせであり、年記のある作品は一点もない。この資料中一点だけ先に紹介した《植物図冊》(〇一六四九)にのみ「炆圃」印がみえる。齋藤秋圃の写生図として考えた画冊である。ではほかの一二六件の「土筆／翁」印の作品はどうであろうか(図8)。これらの資料をすべて秋圃筆とするにはためらうと

ころも多い。たとえばあとにみる《子犬図》に関していえば、「土筆／翁」印のある作品が、描線に硬さがみられ写しと考えられるのである。ただここには明確に梅圃の手になるものとの区別もあるようで、以下にみる「梅圃蔵」の文字やその印章をもつ作品は一点もない。

(四)「梅圃蔵」および「梅／圃」印

資料中「齋藤梅圃蔵」「梅圃蔵」などの墨書や「梅／圃」印をもつ資料が八十九件ある(表5)。年記を伴う作品もおおく、先の記年資料で取り上げたように文政年間の間から天保六年までと、幕末の年号二件をみることができる。このなかで《双鶴図》(〇〇四三九)については先述したように、十代後半の梅圃の練習の跡とみるべきであろう。

(五)「韋行」印、墨書「韋光」、そして「宗休庵」

概要の最後に数は少ないが興味深い資料をあげておきたい。

ひとつは「韋行」印をもつ作品四点である(表6)。「韋行」は齋藤秋圃の初期の名前「葵衛」(あおいまもり)の「衛」の字を解字して作られたといわれていて、秋圃の画号のひとつでもある。しかし、これらの三点のうち二点は「齋藤梅圃」の墨書や印章があるところから梅圃の作品、のこりの一点は「梅圃」の「梅」を消して「秋」を書いているのでこれも梅圃の作品と考える。またここでの「韋行」印は、先にみたようにいずれも天地逆に捺してあり、その筆者をしめすというより戯れに捺されたようでもある。

もうひとつ「韋光」の墨書をみる作品がある(表7)。全部で十一点を数えこのなかには墨画に淡彩の作品も三点ある(図9)。「韋光」

は、秋圃の画業のあとをうけついでものの、のち江戸の地において不祥事をもつてお役ご免となった長男璘太郎の名と伝えられている。墨線による的確な描写と淡彩による賦彩の調子など、すでにある程度の技術を備えた筆さばきをみることができる。さらに画稿の裏面に記された番号(たとえば「六拾壹番韋光」などの)がほかの資料の番号より若いことにも注目すれば、これらの画稿は齋藤家にとって先に整理すべきもの(保管すべきもの、重要なもの)であったこともうかがえる。璘太郎の作品がほかにないところから即断は避けるべきかもしれないが、璘太郎の画稿がのこった可能性と、秋圃の画号「韋行」が読みを同じくする「韋光」であった可能性とを想定すべきであろう。

さいごに「宗休庵(菴)」の墨書のある作品が五点ある。ひとつは先述した秋圃の手になるかと考えた文化八年の《天満宮写生帖》(〇一六七七)であるが、のこりの四点は秋圃、梅圃両方の可能性がある。現在のところどちらとも決めがたい。

以上、齋藤家資料の概要を記してきた。すこしまとめていえば、本画稿のなかでその作者が明確なものは大部分が齋藤梅圃の手になるもので、しかも年記のある作品のおおくがそのなかに存する。後述する文書関係の資料を除けば、画稿の状態にある大半が齋藤梅圃の手になるかと考えている。

二 画稿

(一) 本画と下絵

齋藤家資料の概要について記してきたが、ここであらためて興味ぶかい画稿のいくつかについて取り上げてみたい。ひとつは完成画との

強い関連をしめす画稿、いわゆる下絵である。

現在福岡市博物館所蔵の作品に《馬上人物図》がある。画面右下に「時年九十有二筆翁秋圃」の落款と「秋圃」印がある。¹⁹⁾ 騎乗する中国武人の姿をえがいており、その色彩は強く、衣服などに用いられた群青と馬の毛を表現する茶系のコントラストが鮮やかである。齋藤秋圃は安政六年(一八五九)の十月に九十二歳で亡くなったことが伝えられており、最晩年の作品である。この《馬上人物図》の下絵と考えられる画稿がのこる。その作品は《中国武人図》(〇〇三八五)で、図版からもわかるようほぼそのまま完成画へとうつしている(図10)。画稿には色注などの墨書はないが、画面右上部に面部だけを試筆しているし、画中には朱線や白線の具によりそれぞれ二カ所の修正のあとも見受けられる。この四カ所の修正のうちとくに注目されるのは、馬の右前脚の修正箇所である。ここは馬の胸部から脚部につながるところであるが、画稿の墨線は房飾りの下からそのまま強弱をもたず膝部に下ろされている。そこに朱線による修正のあとがある。朱線は、房飾りの横の方から、起筆を打ち込むことからはじめ膝のところまで下ろしている。本画の右前脚の線をみると、起筆は房飾りのなか(下部)にあるが、墨線による強い打ち込みの点から始まり膝部にまで下ろされている。こうした墨線の打ち込みは、馬の胸から腹部にかかる二本の墨線にもみうけられる。これらの打ち込みの起筆は画稿にはみられなかったところであり、画稿において修正された朱線の指摘を受けておかれた線であると考ええる。とすればこの二点の作品には、画稿の作者、朱線を引いた人物、本画の制作者のそれぞれを考えることができる。すべてが同一人物か、あるいは二人か三人の絵師を想定するのか、もちろんひとりの絵師が自らの画稿に修正をほどこし完成させた

たと考えることもできるが、画稿の作者と本画の制作者が同じ絵師、そこに修正を施すことができる別の絵師の存在を考えるほうが合理的である。齋藤家の場合でいえば、前者が梅圃、後者が秋圃ということになるが、どうであろうか。

つぎにこれも福岡市博物館が所蔵する作品であるが、《遊行図》がのこっている(図11)。²⁰⁾ 画卷に盲目の法師たちが列をなし河を渡り、やがて花見の宴にいたる様子を、軽やかなしなやかな確な描写でえがきだしている。背景の色調と墨線や賦彩が重なり合い見づらいのだが、個々の人物の描写はその肉体の動き、表情などにおいてすぐれたものがある。巻末に「秋圃」の落款がみえる。

資料中にこの《遊行図》の下絵と考えられる画稿が二件ある。一件は《花鳥図》(〇〇〇三九、縦三八×横九〇cm、図12)の裏面にあるもの、もう一件は《遊行図》(〇〇三四九、縦三九・七×横一三六cm、図13)である。この画稿二点と完成画とを比べてみると、《花鳥図》裏面の画稿は、完成画における右側の法師たちがこれから河を渡ろうとする場面までをえがくが、その法師たちの集団は対角線の斜めの構図ではなく、一群の固まりとしてえがかれている。一方画稿《遊行図》は、河を渡ろうとする一群の法師たち、その上部の一本橋を跨いで渡る法師、いがみ合う場面、犬に追われるところ、そして宴の場面などをえがき、いくつか異なる箇所はあるが、ほぼ完成画へと引き写されている。すなわち、《花鳥図》裏面画稿から《遊行図》画稿を経て、完成画《遊行図》が描かれていることがわかる。完成画が若干長い点は、巻初巻末がそれぞれ左右に引き延ばされ、巻初では法師たちの斜めの構図が一層強くなっていること、巻末では宴の場面に余白を挿入したことなどによるものであろう。なお完成画の宴の場面にえがかれる桜

の花は、画稿のどちらにもえがかれていない。この《遊行図》については、その主題を含め、稿をあらため検討したい。

本画と下絵ということであればこの二点の作品と三件の画稿が結びつく。このほか秋圃が得意とした「鶴」や「猿」、「七福神」や「寿老人」、そして「中国人物」や「菊慈童」などの画稿もおおくのこり、かなり近似する図様はあるが、完成画に直接結びつけることができる画稿はない。

(二) そのほかの画稿

齋藤秋圃についてはその絵画修業時代のことほとんど伝わらない。一説に円山応挙に師事し、応挙没後森狙仙にならったことも伝えられているが、明確な資料でもってそれを裏付けることはできない。しかしその作風に円山・四条派の流れをみることはできる。ここではそうした円山・四条派につながるかと考えられる画稿をすこしとりあげてみたい。

最初は《休息歌仙図》である。もとは江戸時代前期、雛屋立圃によって考案された歌仙図で、くつろいだ姿の三十六歌仙をえがき、そこに歌仙の名を織り込んだ歌を賛としてつけ加えたものである。俳画の祖ともいわれる立圃の軽やかな作品である。この立圃考案の歌仙図をさらに「荒唐無稽ともいふべき思い思いの仕草にふける姿で」²²⁾えがいたのが「休息歌仙図巻」である。その最初は松村呉春によって描かれたといわれる。行方不明の作品を含めて数本の《休息歌仙図》巻の存在が知られている。すなわち、川崎男爵家本（行方不明）、逸翁美術館本、柿衛文庫本、角屋保存会玉洲模本（天保七年）、そして早藤春英画の齋宮歴史博物館本などである。この《休息歌仙図》の写しが齋藤家資

料のなかにのこる。

《歌仙図（休息歌仙図）》（〇一六二一、図14）《休息歌仙図（山中社寺図）》（〇一六二三、図15）、《中務図（休息歌仙図）》（〇一六二五、図16）、《休息歌仙図》（〇一六八六、図17）の四件が写しと考えられる。現在糊がはがれ、まくりの状態になっているが、全部で二十八枚を数える。順序は、図14から図17を経て、図16の《中務図》、図15の北村季吟の句で終わっている。ただこれらの画稿のうち、図15、16、17ではその天地が三九cmほどあるのだが、図14では二七cmでありつながりとしてはやや不自然な点ものこる。この《休息歌仙図》についても稿をあらため考えてみたい。

また画稿には子犬を描いた作品も十点余のこる。このうち三点を除けばいずれも愛らしい子犬をえがいている。このなかでとくに二点の作品が注目される。《子犬図》二件（〇〇四七六と〇〇六〇九、図18）である。二点ともほぼ同様の構図で、画面下部に白毛の子犬を向こう向きに、そして上部に黒毛の子犬二匹をこちら向きにえがいている。筆あとをみれば後者の子犬図の方が運筆に優れ、墨塗りによる黒毛の柔らかい感じもうまく表現している。それに対して前者の（先述した「土筆／翁」印をもつ）子犬は輪郭線も毛筋書きの線も堅くぎこちない。後者の子犬図をもとに前者がえがかれたとおもわれる。これらの子犬図によく似る子犬図が国井応文・応陽の画稿のなかにみえる。²³⁾

もちろん愛らしい子犬を応挙はさかんにえがき、円山・四条派の画系においてもしばしば写されてきたことは想像に難くないが、その絵画修業時代のこと不明な秋圃にとって、《休息歌仙図》と《子犬図》のふたつの作品は、その画系へのつながりの一端をしめすものとも考えられる。

三 文書

以上、画稿についてふれてきたが、つぎに齋藤家資料中のこの文字の記録(書簡、日記、住所録など)について記してみたい。

(一) 年齢のこと

まず最初は、齋藤秋圃の生年を推定できる記録である。

齋藤秋圃はこれまで、その歿年(安政六年・一八五九)と法名塔に享年九十二歳と記すことから、生まれた年を明和五年(一七六八)とされ、その生年から行年書の作品の制作年が比定されてきた。⁽²⁴⁾しかしときにその年齢と、たとえば奉納絵馬の奉納年などとの齟齬があり、明確に制作年を確定することにはためらうところも多かった。

秋圃のこの生年にたいして蓋然性をもって答え得る資料がのこっている。それは《寿》「文字」(〇〇二七〇、図19)である。本資料には、引首印「仙窟」(白文朱長方印)をはじめに、「寿」のひと文字を大きく記し、そのあとに「壬辰孟春圀／賀秋圃老翁六十一／初度」、末尾に「月菴□貫香月美一／□五題書「月／菴」(白文朱方印) 印章一顆」とある。ようするに齋藤秋圃の六十一歳(還暦)を祝して月菴なる人物からおくられた「寿」のひと文字である。⁽²⁵⁾この書面の内容をそのまま読み解けば、齋藤秋圃は壬辰年の生まれとなる。秋圃が生きた時代を考慮しその干支を求めれば明和九年(安永元年・一七七二)がその年にあたり、孟春とあることから一月でもある。そして還暦は天保三年(一八三二)となる。

この生年を秋圃の略歴のなかに入れ込めば、安政六年に歿したときには八十八歳である。しかし現実には「九十歳」「九十一歳」そして「九

十二歳」の行年書をもつ作品がおおく存在する。その作品の真贋をここで論じる余裕はないが、とにかく秋圃の作品に八十八歳以上の年齢が記されている。そこでひとつ考えられるのは、秋圃よりすこし年長の画家伊藤若冲のことである。若冲の晩年の作品には生年から数えたときの年齢の矛盾があり、制作年の確定には戸惑うこともあったが、狩野博幸氏によってあるひとつの説が提示され、その問題が解決されようとしている。狩野氏は『日本古典文学大系』のなかの川上不自についての補注を紹介されるなかで、「還暦を迎えたら、それ以後は改元されるごとに一年ずつを加算することがあった」という説を若冲に適用され、その制作年の矛盾について解決をはかれた。⁽²⁶⁾

ここで秋圃についてこの説を適用してみれば、天保三年の還暦以降改元は、弘化、嘉永、安政の三回ある。弘化元年(天保十五年)は、七十三歳と七十四歳が、嘉永元年(弘化五年)は七十八歳と七十九歳が、そして安政元年(嘉永六年)には八十五歳と八十六歳が存することになる。この年齢換算でいえば、これまで「七十五老翁」の行年書ゆえに天保十三年(一八四二)の制作とされ、粹銘「弘化二年」との時間の差があつた福津市金刀比羅神社の《恵瓊と藤吉郎図絵馬》は矛盾することなく弘化二年(一八四五)の制作となる。また「行年八十歳」とあり弘化四年(一八四八)制作とされている須賀神社《出漁図絵馬》は、粹銘の「嘉永二年(一八四九)」に制作されたことになり、矛盾は解消する。

しかし、こうした年齢の換算がすべての作品に合理的にあてはまるわけではない。とにかく「九十二歳筆」の行年書の問題が未だのこるし、安政四年(一八五七年、明和五年生まれとして九十歳、安永元年生まれとしたら八十六歳、そして換算年齢でいえば八十九歳)に奉納され

た筥崎宮《通矢図》絵馬一面に「行年九十歳土筆翁秋圃」の落款ものこる。筑前の地にいた秋圃にこの慣習があてはまるのかどうか、秋圃作品の制作年の特定には、もう少し時間がかかるものと考ええる。

(二) 書簡

つぎに書簡類であるが、十八通ほどのこっている(宛名書きの不明なもの、秋圃に関係しない書簡を含む)。書面にのこる宛先はそれぞれ「秋圃大人」「雙鳩様」「双鳩先生」「秋圃様」「秋甫先生」「韋行様」「雙鳩先生」などあり、少なくとも同一人物からの複数の書簡はない。こうした書簡に差し出し年をもとめるのは難しいところがあるが、一通だけその年代を推定できる書簡が存在する。それは調査番号〇一七八のなかの一通で、前文が失われているがつぎのように読める。「当地も何も珍事も無御座候、御屋敷中も志つか二御座候、ふくも殊之外をとなく相成申候、堺町にて彦山権現始メ申候、三津五郎六助、半四郎おその、大あたりのよし二御さ候、残暑つよく和なくハ、また参得不申候、貴答同見舞まで草々申□候／恐惶謹言／八朔／渡辺仙林／源(花押)／双鳩先生」とある(図20)。

そこで、ここに記されている歌舞伎彦山権現の上演記録をもとめたところ、文化四年(一八〇七)七月二十二日から江戸中村座において、「毛谷村六助 板東三津五郎」「一味齋娘おその 岩井半四郎」によって、「靈驗鼎高嶺」の興行名で上演されていること、そして豊国画の版画ものこされていることがわかった。⁽²⁷⁾ また差出人渡辺仙林については、原古処が主催した秋月賞月会の享和元年(一八〇一)八月十三夜に交わった邊孔阜(渡辺職)、すなわち「渡辺仙林、称鉄五郎であらう」とされ、⁽²⁸⁾「勤務中病死したとされる鉄五郎の没年もその前後(筆者注、

文化四年)に違いない」とされている人物であることがわかった。⁽²⁹⁾ この書簡によって渡辺仙林の、同年八月までの生存が確かめられる。宛名に「葵衛」ではなく「双鳩先生」とあるところから仙林も、原古処周辺の秋圃の文化的な側面に共感しうる人物であつたろう。

文化四年は齋藤秋圃にとつてどういう年であつたろうか。前年から秋月候の参勤交代に従つて江戸にのぼつていた秋圃は、この年二月二十四日と二十六日に滝沢馬琴を訪ね、馬琴の記録にその名前「葵衛」をのこしている。⁽³⁰⁾ その月末に江戸を發つて秋月に戻り、五月御膳番を仰せつかり、八月には原古処の賞月会に参加、そして十月秋圃を絵師として召し抱えた黒田長舒が歿している。さらにこの渡辺仙林のことを考えれば、文化四年という年は秋圃にとつて忘れられない年であつたかと思われる。

(三) 『京遊日記』

つぎに本資料中の、あるいはもつとも興味深い資料のひとつでもある『京遊日記』(〇一七一一五、図21)を紹介したい(なおこの日記は、別稿をもつて翻刻予定である)。

ふるく許斐友次郎氏の新聞記事に、「天保五年京都の宗家訪問と展墓を兼ねて、妻及び子の梅圃を伴ひ京都に遊び、父子合作の『京遊日記』十四巻を作つて居る」とある。⁽³¹⁾ 許斐氏は、新聞の一段おおよそ七百字ほどを使つて三月十五日筑後乙吉村訪問から四月二日の太宰府出立、博多、福岡の知己訪問、そして四月二十九日京都到着までをやや細かく記し、その後の京都名所見物、伊勢神宮参拝、名古屋の豪潮律師との再会、同年八月十六日太宰府帰着のことなどについてはそのことのみを簡略に記されている。この『京遊日記』十四巻は、その後の

八尋和泉氏の調査によれば戦災によって焼失したと伝えられ、全容については不明のままであった。齋藤家資料にのこる『京遊日記』は三月十五日の乙吉村訪問から、五月一日京都上賀茂神社祠官岡本甲斐輔訪問の記事、そして(五月)二日の日付を記したところで終わっている。日記のなかには太宰府、博多のおおくの地名や知己の名前を記すが、そのうち幾人かは秋圃の交遊関係のなかで確認できる人物である。たとえば「すのこ町いゝつかや久平」、「中のばん松寿」、「東圃」などは許斐氏も紹介されている人物である⁽³²⁾。

またこの日記に関連するかと思われる資料として『瀬戸内写景図』(〇一六四五、図22)と『養老瀧図』(〇〇八九五)ものこる。写景図は紙数三十九枚を数え、海岸のスケッチとともに「アカシ」「淡路」「上ノセキ」などの留書もみえ、その右開きの順序を考慮すれば、帰路の瀬戸内風景かとも思われる。また『養老瀧図』裏面には「養老山図」天保年両親共参宮致／名古屋地上栄蔵成善□郎／右ノ處参六月二ヶ瀧う／たれ」の墨書がある。これによって、秋圃ら三人が名古屋を訪問したこと、本図が梅圃によつて天保年間からしばらく経過してえがかれたことがわかる。さらに別件の資料であるが、秋圃筆富士図に豪潮が賛をよせている作品ものこる。豪潮の落款に「時年八十六歳」とあり、豪潮は天保六年(一八三五)に八十七歳でなくなっているので、本作品は天保五年の制作になる。

文字資料関係の最後にふたつの住所録をあげておきたい。ひとつは『諸国姓名録』(〇一七三三)、もうひとつが『長崎人名録』(〇一七三三、図23)である。二件とも横長の(縦七〇八×横一五〇一六cm)冊子形で、前者には表紙に「諸国性名録」^ア、なかに「弘化二年巳十月より十二月十九日迄長崎」の墨書などもみえ、弘化二年(一八四五)ころに

記されたものかと思われる、後者裏表紙には例の「秣圃」印が捺されている。ただふたつを比較してみると、それぞれに長崎の町名、人物名などを記しほぼ共通するが、長崎の絵師石崎融思のことと思われる人名が、後者には「石崎思□(虫ヘンまでを記す)」と記され、前者では「石崎氏」とあるように、後者からすこし整理されて前者の『諸国姓名録』が編されている様子もうかがえる。またこれらの人名録には長崎代官高木作右衛門をはじめおおくの人名が記されているが、そのなかでひとり気になる人物がいる。それは両方の資料にでてる「本紺屋町藤田天外」で、藤田天外は、文化二年(一八〇五)ころに出版されたとされる絵排書『わすれくさ』の巻末、同書に句を寄せた俳諧人一覧のなかに「天外／長崎藤田氏／号櫻欄菴」と記される人物である⁽³⁶⁾。秋圃の交友のなかに絵師とともに俳諧関係の名前がみえることは注目される⁽³⁷⁾。

四 問題点

以上、齋藤家にのこった齋藤家資料について概要、画稿、文書の項目にしたがつてその概略を記してきた。重要な資料については記述してきたつもりであるが、全容を紹介するには筆者の力量と紙数の不足は否めない。そこで問題点をもう一度整理し次の機会をまつことにしたい。

画稿については、その作者(筆者)の問題がのこる。のこされたおおくは墨書やその筆跡から梅圃の手になるかと考えたが、絵の部分の墨線の、秋圃と梅圃の手の違いを区別することは難しい。秋圃の軽やかな筆さばきは、おそらく梅圃も身につけていたであろうし、別件で

あるが、実際にのこされた梅圃の絵馬や画巻はそうした秋圃の技術を的確に受け継いでいる。⁽³⁸⁾ただ画稿の手の違いを詳細に求めていけば、完成作のそれは区別できるはずである。画稿はその基準になり得ると考える。さいわい秋圃の筆跡や印章は資料のなかにみることができ、今後はこれらの筆跡と、作品の落款、印章の印文などを比較していきたい。検討すべきものはおおくある。

ふたつめに齋藤秋圃の年齢の問題が浮かびあがってきた。ひとつの資料に基づき四年ほど生年をずらし、若冲の説を借り、秋圃にあてはめてみたが、それでも不合理さはのこる。あらためてその行年書と本画の制作年とを整理し直す必要があると考える。

最後にのこされたのは書簡類である。すべてが解説できて紹介すべきであろうが、断片となっている書簡もおおく、数通を読み終えたところである。書簡の差し出し人には「よね長」⁽³⁹⁾「月化」⁽⁴⁰⁾「斯焉」などの文字もみえ、俳諧関係かと思われる興味深い人物からの書簡もある。秋圃の交友関係の方向がうかがえる。

おわりに（謝辞にかえて）

本稿をなすにあたって、貴重な資料を長期間借用させていただいた齋藤家、及び齋藤仲道氏にはあらためて御礼申し上げます。またこうして執筆させていただいたのは八尋和泉氏の紹介によるものです。平成二十三年夏の太宰府九州国立博物館での十数年ぶりの邂逅に感謝いたします。さらに、本稿のあらましについては同年十月の第七十四回近世美術研究会において報告させていただきました。この機会を設けていただいた小林法子氏、福井尚寿氏に感謝するとともに、同会に参

加いただいた方々にも御礼申しあげます。

最後になりましたが、齋藤秋圃作品の調査および資料の検討では、福岡市博物館（学芸員末吉武史氏）、九州歴史資料館（学芸員井形進氏）、柳川古文書館（学芸員田渕義樹氏、同江島香氏）、福津市教育委員会、有田桂雲寺、同陶山神社、錦織亮介氏に大変ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。

註

- (1) 許斐友次郎「筑前の齋藤秋圃画伯を憶ふ」『九州日報』昭和八年五月二十日、二十三日、二十五日、二十六日、二十七日、三十日、三十一日、六月一日、二日、三日、十回連載。なお副題には「世の美術愛好家へ」ともある。
- (2) 八尋和泉「画家齋藤秋圃（第二回補稿）―地方画家調査について―」『宗教文化』第五号、昭和四十九年三月、宗教文化懇話会
- (3) 緒方無元編「郷土先賢詩書画集」昭和五十年六月、郷土先賢顕彰会、なお全三一〇頁のうち一一七頁から一六八頁までが秋圃に充てられている。
- (4) 中野三敏「研究室から 齋藤秋圃の前半生―その奇妙な断絶―」『九大学報』No.一一七八、昭和五十六年五月
- (5) 小林法子「筑前関係絵師資料―齋藤秋圃略年譜―」『福岡大学人文論叢』第二十五巻第一号、平成五年六月
この資料集が齋藤秋圃研究の基本になることは中野三敏先生も指摘されるところであり、本稿を記すにあたりこの資料集とつぎの論考を参照した。
- (6) 小林法子「齋藤秋圃」『太宰府市史 建築・美術工芸資料編』、平成十年五月、太宰府市
- (7) この齋藤家移築計画は、近畿大学産業理工学部工藤卓教授によつてすすめられた。詳しくは工藤卓「昭和初期和洋折衷住宅の移築再生プロジェクト」〔太宰府市の文化財第九七集 馬場遺跡3〕平成二十年三月、太宰府市教育委員会を参照。なお同書に簡単に資料の解説を記している（橋富博喜「齋藤家画稿について」）。
- (8) 江戸時代御抱え絵師の家系にのこった資料のおおくは「粉本」と称せられ

ているが、齋藤家資料を厳密な意味での「粉本」というにはためらうところもおおい。ここでは模写、写生図、縮図、そして下絵類など、すなわち完成にいたらない作品を「画稿」と称した。

- (9) 註(5) 小林資料
- (10) 註(5) 小林資料
- (11) 註(5) 小林資料 なお八尋和泉氏からは光明寺にのこる齋藤家法名塔の写しを提示いただいた。
- (12) 光明寺法名塔には「明治八年 六十歳」で死去したことが記されている。それによれば生年は文化十二年となる。また嘉麻市馬見神社に《金時図絵馬》一面がのこる。同絵馬落款に「文政十丁亥冬十月下旬 十二童 楳圃 印章一顆」とあり、楳圃の生年（文化十三年）が推測できる。ただこの落款の文字は十二歳楳圃の自筆とは考えられない。なお馬見神社には同年の齋藤秋圃作《相撲図絵馬》ものこる。
- (13) 『尾形家絵画資料目録』昭和六十年三月、福岡県文化会館、および『尾形家絵画資料図版』昭和六十一年三月、福岡県立美術館
- (14) 『久留米市文化財調査報告書第三十集 久留米藩御用絵師絵画資料目録』昭和五十六年三月、久留米市教育委員会、つづけて『同第三十一集目録(二)』昭和五十七年三月、『同第三十七集目録(三)』昭和五十九年一月、『同第三十八集目録(四)』昭和五十九年三月が発行されている。
- (15) 註(13)『資料目録』所収の後藤耕二「解題」
- (16) 『国井応文・応陽粉本展 失われた応挙を求めて』図録、昭和六十一年十月、(財)京都市社会教育振興財団
- (17) 註(1) 許斐新聞連載三回目(五月二十五日)
- (18) 註(1) 許斐新聞連載八回目(六月一日)
- (19) 《馬上人物図》絹本着色、掛幅装、縦九二・七×横四二・五 cm
- (20) 《遊行図》絹本墨画淡彩、卷子装、天地三三・九×長さ一四八・一 cm
- (21) 註(1) 許斐新聞連載一回目(五月二十日)
- (22) 武田恒夫「角屋保存会 玉洲模『休息歌仙図』巻について」『角屋研究』第六号、平成八年八月
- (23) 註(16) 参照

- (24) 註(5) 小林資料
- (25) 文政二年(一八一九) 仲冬序の俳書「うめわさむ」の画者のひとりとして月庵の名前がみえる。同書に秋圃も挿絵をかいているところから、同一人物の可能性も考えられる(太宰府市市史資料室朱雀氏の御教示による)。
- (26) 狩野博幸「伊藤若冲について」『特別展覧会没後二〇〇年 若冲』展図録、平成十二年十月、京都国立博物館
- (27) 早稲田大学演劇博物館 <http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/index.html>
- (28) 宮崎修多「祭酒期の原古処とその周回―筑前詞壇瞥見―」『福岡県史 近世研究編 福岡藩(四)』平成元年六月、福岡県
- (29) 註(28) 参照
- (30) 中野三敏「江戸文化評判記」平成四年十月、中公新書
- また早稲田大学図書館収蔵『滝澤家訪問往来人名簿』、なお本資料は同図書館古典籍総合データベース「江戸文学コレクション」中の「曲亭馬琴の世界」で見ることができ。 http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/ga_edo/list_01.html
- (31) 註(1) 許斐新聞連載八回目(六月一日)
- (32) 註(5) 小林資料 なお日記の焼失については八尋和泉氏講演記録。
- (33) この箇所を部分的に抜き出せば「……今宮御たひ所ヨリ岡本ニ参ル、甲斐輔面会、中飯……」とある。上賀茂神社祠官岡本家とは、秋圃母方とのつながりがあると言われてきた(註(1) 許斐新聞記事連載二回目(五月二十三日))。また岡本家との関係については中野三敏先生によって岡本甲斐守から齋藤若哉(秋圃)宛の手紙が紹介され、「何がしか家族的な交情の様子もうかがわれるので、縁家であったろうことは察しうると思う」とされている(中野三敏「第十二 秋圃立身」『江戸狂者傳』平成十九年三月、中央公論新社)。手紙は年代不詳、秋圃の従兄弟であろうかと思われる岡本保考(一説に保孝)は文政元年(二八一八)四月(一説に文化十四年)になくなっている、それ以前の手紙であろうとされている。それゆえ天保五年に秋圃が面会したのはその子岡本胡保(ひさやす、天保七年歿)であったと考えられる。しかし胡保は甲斐守を称し「輔」ではない。父保考が甲斐守兼治部権大輔を称している、そのあたりの混同が秋圃にあったのであろうか。
- (34) 註(1) 許斐新聞連載七回目(五月三十一日)

ここで許斐氏は秋圃の交遊関係者として次の名前を挙げられている。儒者—
 原古処、亀井昭陽、戸次宣春 医師—上村米山、宮本陶齋、荒木昌（松） 壽
 俳人—大野瓢風、田口四軒、三角斗丈、川越士焉（斯焉） 商人—奥村玉蘭、
 大隈御風、松永士登、立石又兵衛 僧侶—崇福寺幻菴、承天寺龍門、聖福寺
 湛元、姪浜広（興） 徳寺和尚、怡土龍橋和尚、虚白院仙崖（僊厓） 和尚 彫
 刻家—牧牛軒利治、中村利満、松下音洲 画家—石丸春牛、村田東圃、桑原
 鳳井、山口南嶺

(35) 《富士図》紙本墨画、掛幅装、縦三一・一×横五八・三cm、落款印章「秋圃」「槐圃」（白文朱方印）、引首印「無塵」、画賛「一睡青山山頂 覺来方欲帰 枕辺明月落 足下白雲飛」、落款・印章「八万二千煩惱主人豪潮書／時年八十六歳」「洞籠」（白文朱方印）

(36) 「わすれくさ」夏・秋・冬の末尾「俳家名録」に記載。なお同じく末尾の「画名家部」に「秋圃 筑前秋月藩中葵氏」とあることはすでに指摘されている（註(4)中野論考）。

(37) 註(6)小林論考

(38) 拙稿「福岡浦鯛漁図絵馬」「絵師斎藤梅圃」「福岡町史通史編」平成十二年六月、福岡町

(39) 月化 日田の俳人 本名広瀬、月化、秋風庵と称す。延享四年（一七四七）—文政五年（一八二二）

(40) 川越斯焉（士焉とも） 註(34)許斐記事の交遊関係のなかにみえる。また齋藤家資料中年代不詳であるが、秋圃への祝詞資料もある。

（はしとみ・ひろき 近畿大学教授）

表1 記年資料

番号	作品名	数量	墨書 ※備考	制作年	作者
00149	天台大師像	1	「隋帝自所寫天台大師之眞在肥後／繁根木山之寶庫焉維時寛政九丁／巳仲冬應筑前太宰府信賢尊者及／闔山緒住侶之需以傳教大師加持水和墨謹模寫併記豪潮」	寛政9年	
00260	山水図	3	「文化丙寅冬臨模第廿二」「閑卿／之印」（白文朱方印）、（裏面）「ヨノ毛□／□」（朱書）「冬粧三十六之内／二十二」「深遠／技麻□□」	文化3年	閑卿 カ
00208	帝鑑図（淡彩）	4	「文化丁卯秋九月 劉松年画之寫」「同文」「閑卿／之印」（白文朱方印）、（裏面）「戊辰□本十五之内第六／安々居 □」（朱印一顆）「離」（朱書）「劉松年模本」「ヨノ知稼穡之□難／發倉府賑□寡」（朱書）	文化4年	閑卿 カ
01677	天満宮写生帖	1	（表紙）「文化辛未之春寫生」「齋藤藏所」、「第壺」から「廿九」までの数字あり、（裏面）「□都／天満宮社内於□／宗休菴藏」※紙数30枚	文化8年	
00721	松鶴図	6	（裏面）「文化丁卯冬／葵藏」	文化10年	
00656	冬景山水図	4	「文政二己卯秋八月日／秋圃先生図／木啓實匡謹寫／四枚之内」、（裏面）「千六十五番／齋藤藏」	文政2年	木啓實匡
00599	陶淵明帰去来図（淡彩）	10	「壬子ノ嘉平月」、（裏面）「文政十一年子ノ二月寫／ウノ（朱印一顆）十一番／齋藤梅圃藏」「梅圃」（白文朱方印）、「尾五百十三番／陶淵歸去來圖／齋藤藏」	文政11年	齋藤梅圃
00915	墨竹図（断片）	1	（裏面）「文政十二丑六月廿二日寫／百九十九番／齋藤梅圃藏」「梅圃」（白文朱方印）	文政12年	齋藤梅圃
01250	松に孔雀図（断片）	5	（裏面）「百十番／文政十二年／丑ノ六月吉日／齋藤秋圃（「車行」の逆印四顆）」	文政12年	齋藤梅圃 カ
01199	梅図（断片）	2	（裏面）「文政十三年寅正月寫」	文政13年	
00005	布袋図（墨書）	5	「天保二卯秋七月写／千三十九番／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00136	松鶴図	9	（裏面）「千九番／文政十四ノ年卯ノ春／松二千バ鶴 齋藤梅圃」「梅圃」（白文朱方印）※文政14年＝天保2年	文政14年	齋藤梅圃

00215	松鶴図（淡彩）	3	（裏面）「千六番／文政十四年卯ノ春□寫／齋藤梅圃藏／松二鶴」 「梅圃」（白文朱方印）	文政14年	齋藤梅圃
00341	茶屋図（淡彩）	4	（裏面）「天保二卯ノ春二月」「□」白文朱方印一顆「二枚之内／ 齋藤梅圃藏」「梅圃」（白文朱方印）	天保2年	齋藤梅圃
00414	騎馬武者図	3	（裏面）「天保二卯ノ夏四月／十八番 齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00439	双鶴図（淡彩）	2	（裏面）「文政十四年卯ノ春／千十一番／齋藤梅圃藏／春松二鶴」、 朱印一顆「秋圃」、「秋圃」「秋」「秋」「梅」「梅」「梅」「梅」ほか	文政14年	齋藤梅圃
00497	紅葉に鹿図	4	（裏面）「天保二卯秋八月寫／千二十九番／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00551	花鳥図（淡彩）	7	（裏面）「天保二ノ卯六月寫／千廿一番／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00552	柳に鷹図（淡彩）	2	（裏面）「文政十四年卯ノ春／千十三番／齋藤梅圃藏」「梅圃」（白 文朱方印）「春／ヤナギニ鷹」	文政14年	齋藤梅圃
00570	菊図	8	色注「白」、（裏面）「天保二卯歳／秋七月寫／千廿一番／齋藤梅 圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00659	鹿図（淡彩）	8	（裏面）「天保二卯正月／千十五番／齋藤藏」「梅圃」（白文朱方印） 「春／ゆずりは二鹿」	天保2年	齋藤梅圃
00706	虎図	5	（裏面）「天保二卯春二月／三枚之内／齋藤梅圃藏」「梅圃」（白文 朱方印）	天保2年	齋藤梅圃
00874	虎図（断片）	4	（裏面）「天保二卯春二月／三枚之内／齋藤梅圃藏」「梅圃」（白文 朱方印）	天保2年	齋藤梅圃
00879	高士図（断片）（淡 彩）	1	（裏面）「天保二卯春三月寫／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00925	鹿図（断片）（淡 彩）	3	（裏面）「拾二枚之内春図／天保二卯秋八月寫／千廿七番／齋藤梅 圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
01377	山図（断片）	1	「天保二卯春二月 □（朱印一顆）／二枚之内／齋藤梅圃藏」「梅圃」 （白文朱方印）	天保2年	齋藤梅圃
01487	梅に鶴図（断片）	4	（裏面）「春／梅二鶴」「文政十四年春 枚之内／千十番 齋藤梅 圃藏」「梅圃」（白文朱方印）	文政14年	齋藤梅圃
01680	仏説話図（卷子）	1	（末尾に）「辛卯孟夏日／客舎」	天保2年カ	
00225	花卉図	1	「天保三年／壬辰二月寫物」「二月十一日寫」「二月十二日寫／三 面カ子」、色注「茶」「朱」ほか	天保3年	
00270	「寿」一文字（墨 書）	1	「壬辰孟春○賀秋圃老翁六十一／初度／月菴□貫香月美一／□五 題書」「月／菴」（白文朱方印）朱印一顆、引首印「仙窟」（白文 朱長方印）	天保3年	
00817	寿老人図（淡彩）	3	「・・□（描印一顆）」、（裏面）「天保三辰春日寫／千十七晩（マ） ／齋藤梅圃藏分」	天保3年	齋藤梅圃
00863	親子鹿図	3	（裏面）「天保三年壬辰冬十一月／藤梅圃藏」	天保3年	齋藤梅圃
00994	山中陶器製作図 （断片）（淡彩）	1	（裏面）「三月三日／天保三年／辰ノ春日寫／千二十四番／齋藤梅 圃藏」	天保3年	齋藤梅圃
01719	漢詩稿（墨書）	9	（卷末）「天保三年／壬辰ノ二月吉日／齋藤梅圃分／扇子」	天保3年	
00383	中国武将図	5	色注「金」「白」、（裏面）「天保四年／秋八月四枚之内／梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
01047	松図	2	（裏面）「天保四年／癸巳（マ）秋九月／梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
01083	西王母図（断片）	1	色注「丹」、（裏面）「天保四年／秋八月四枚之内／梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
01395	山図（断片）	1	「・・□（描印一顆）」、（裏面）「天保四年／秋九月／藤梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
00079	山水図	2	（裏面）「天保五年夏日寫／齋藤」	天保5年	
00751	山水図	3	（裏面）「天保五年午夏日／齋藤所藏／源應學図」	天保5年	
01214	山水図（断片）	1	（裏面）「天保五年甲午六月大年寫之／藤梅圃寫之書」	天保5年	齋藤梅圃
01715	京遊日記（墨書）	1	「三月十五日より筑後乙吉村ニ行き、廿一日に秋月へ帰り、…… 天保五年四月一日早朝天満宮参慶／おとミ、瑞五郎供す、ま仰（マ） つれ勢（マ）行坊立寄、御供屋にて見立本膳出ル／○晴／同二日早 朝出立、觀世音寺迄送り人々／……」、裏表紙「わらくつ一 足 いもじやくし」※紙数10枚	天保5年	
00648	人物図	1	「天保未春二月三日／秋月江戸□ヨリ／申來ル勢行坊／取次ニテ 是ヲ画書」	天保6年	
00784	山水図（淡彩）	9	「霞氣初収旭日將起／□□境中得來／倣子久筆意にて □（描印 一顆）」、（裏面）「長 天保六年乙未秋日寫／齋梅所藏／柳川龍青 寺／□□寺／三池大方寺」	天保6年	齋藤梅圃
01413	柳図（断片）	1	（裏面）「天保乙未歳／齋藤所藏」	天保6年	
01674	名人集錦冊	1	（表紙）「名人集錦／乙未秋日／梅圃写」※紙数9枚	天保6年	齋藤梅圃
00617	花鳥図（淡彩）	15	（裏面）「天保九戌秋八月日寫／葵所藏」	天保9年	
01166	羅漢図（断片）	1	（裏面）「天保九戌秋日／葵所藏」	天保9年	

00620	鯉図（淡彩）	3	「カラ サケ／干鯉寫／十二月□□／作莫□スリ／スミ曲者イリテ／イチ面ニ鱗書ナリ」、（裏面）「天保十年冬日／葵藏」	天保10年	
00259	双鶴図	8	（裏面）「天保十一年子三月寫」	天保11年	
01669	恵比寿、相撲図 他	1	（表紙）「エビス鯛／角力之古圖／唐ノカルワサ師」、「天保十一子／十二月写／エビス鯛ト／云方（以下略）」「軟腰生利」ほか※もと冊子、6枚	天保11年	
00352	七福神図	5	色注「地クサ」、（裏面）「天保十二辛丑夏日／葵所藏」	天保12年	
00540	牡丹図	1	（裏面）「天保十二丑秋／葵所藏」	天保12年	
00747	松に群鶴図	3	（裏面）「天保十二丑正月／二幅對之内／葵氏藏」	天保12年	
00972	茶席略図（墨画・墨書）	1	「天保十二辛丑春寫／葵所藏」、道具名などあり	天保12年	
00168	親子鹿図	4	（裏面）「保十三年／葵藏」「中村／山ノ口／弥吉」	天保13年カ	
00176	梅に禽鳥図	4	（裏面）「保壬寅秋日／葵藏」	天保13年	
00282	駕籠図	1	（裏面）「天保十三夏日／葵藏」	天保13年	
00290	夫婦岩図（二見浦カ）（淡彩）	1	（落款）「七十一翁紀正厚題 □□（描印二顆）」「雨月潭□ □（描印一顆）」「紀月磯畫併題 □□（描印二顆）」「豪潮尊者……／伊藤武矩拜□□（描印二顆）」、（裏面）「天保十三壬寅冬写／葵藏」	天保13年	
00399	双鹿図	7	（裏面）「保十三壬寅／葵所藏」朱印一顆	天保13年	
00624	画賛墨書（墨書）	1	墨書あり、（裏面）「天保十三壬寅冬／葵所藏」	天保13年	
00667	菊慈童図	1	（裏面）「保十三壬寅春日／葵所藏」	天保13年	
00968	徳川家康像（断片）（淡彩）	1	色注「御髭つゝき白」「スミ六入ル」「袍黒□□」、（裏面）「内府公生像／天保十三壬寅秋八月寫／葵所藏」	天保13年	
00081	中国武人図	4	色注「コン」「白」、（裏面）「天保十四年寫／葵所藏」	天保14年	
00610	高砂図	2	（裏面）「保十五歳／宗休菴藏」	天保15年	
01258	梅図（断片）	1	（裏面）「保十五年初秋日寫／葵所藏」「冬日写」「冬日写」「山家有」	天保15年	
00485	七福神図（淡彩）	4	（裏面）「乙巳／葵藏」	弘化2年	
01084	鹿図（断片）	2	（裏面）「弘化二歳／初秋寫」「十二枚之内／宗休菴」	弘化2年	
01106	枯木図（断片）	2	（裏面）「乙巳初秋写／十二枚之内／葵藏」	弘化2年	
01217	鹿図（断片）	1	（裏面）「乙巳初秋写／十二枚之内／葵藏」	弘化2年	
01732	諸国姓名録（墨書）	1	（表紙）「諸国性(マ)名録」、「肥前長崎／嶋原町 高木清右衛門／同精十郎／御手代／村瀬太郎衛門／同 後藤宗太郎…（以下略）」「弘化二年巳十月より十二月十九日迄長崎」※紙数12枚	弘化2年	
00495	蓴衣婆図（淡彩）	2	「仲／選」（白文朱方印・描印）色注「白」「毛古□」、（裏面）「丙午仲春日寫／葵藏」朱印一顆	弘化3年	
00489	天満神像（淡彩）	4	「像」「天満神像／弘化四年未冬／肥後國横(マ)木宿／高木仙右衛門□□（二字削字）所藏」、色注「白」、（裏面）「葵所藏」	弘化4年	
00273	安宅関図	4	色注「下前衣／ハ元ニ□書」「白」「朱」「コン」、（裏面）「葵所藏／安政二年乙卯／仲秋日寫」	安政2年	
01382	笹図（断片）	1	（裏面）「安政三丙巳夏寫／月僊図葵所藏」	安政3年	
00192	錦鶏図（淡彩）	4	色注「白」「クロ付立」、（裏面）「葵所藏／安政五午年秋日□三河地／今村三七号柳谷君□寫」	安政5年	
01636	三福神図	1	（裏面）「安政五戌年秋七月七夕／梅園写」	安政5年	齋藤梅園
01724	古剣縮図（淡彩 卷子）	27	墨書あり、（巻末）「右／男山八幡宮寶藏／採桑老下鞆圖／葉袋尋常之如也／文久二年壬戌夏四月末日／写西肥平田村／葵梅園所藏」	文久2年	齋藤梅園

註）作品名の欄に特に注記のないものは、すべて紙本墨画。以下、表2～7も同じ。

表2 「秋園」墨書

番号	作品名	数量	墨書 ※備考	制作年	作者
00135	鳥図	1	印四顆あり「韋行／之印」「秋園？」		
00270	「寿」一文字（墨書）	1	「壬辰孟春園／賀秋園老翁六十一／初度／月菴□貫香月美一／□五題書」「月／菴」（白文朱方印）朱印一顆、引首印「仙窟」（白文朱長方印）	天保3年	
00278	墨梅図	3	画賛「（墨書あり）稼圃書画 秋園藏」「稼圃 □（描印一顆）」		齋藤秋園
00439	双鶴図（淡彩）	2	（裏面）「文政十四年卯ノ春／千十一番／齋藤梅園藏／春松二鶴」、朱印一顆「秋園」、「秋園」「秋」「秋」「梅」「梅」「梅」「梅」ほか	文政14年	齋藤梅園
00541	舟行図	3	（裏面）「秋秋秋／秋園 梅園藏」		齋藤梅園

00656	冬景山水図	4	「文政二己卯秋八月日／秋圃先生図／木啓實匡謹寫／四枚之内」、 （裏面）「千六十五番／齋藤藏」	文政2年	木啓實匡
00855	筍図（断片）（淡彩）	1	「秋圃藏」		
01041	画賛写し（断片） （墨書）	1	「……秋圃翁居士カ……」		
01250	松に孔雀図（断片）	5	（裏面）「百十番／文政十二年／丑ノ六月吉日／齋藤秋圃（「草行」の逆印四顆）」	文政12年	齋藤梅園カ
01332	笹図（断片）	1	（裏面）「子ノ三百三十番／齋藤秋圃（白文朱方印、朱文方印）」		齋藤秋圃カ
01712	秋圃あて書簡（墨書）	1	「□月三日 勢州橋旅カ屋／黒瀬主馬／太宰府御供殿／御隠居／秋圃大人」、「一筆啓上候、秋日者……」		
01718	秋圃あて書簡ほか（墨書）	20	「六月廿二日 雙鳩様 平□」「六月十三日 茗哉 お鶴カとの」「八朔 渡辺仙林 源（花押）双鳩先生」「七月十八 □□□ 大風カ」「□由 八月十日 秋圃様」「六月七日 よね長（朱印あり）」「九月十三日 久次郎」「斯焉 五月十一日 秋甫先生机下」「信□ 正月廿二日 草行様机下」「壹月十五日賀」「月化 正月廿九日 雙鳩様」「八月五日」「十一月廿二日」「九月十日 天□ 雙鳩先生」、短冊「梅に月 離さぬ春の……茗□」「錦とも花とも古處の山紅葉 四軒」、「馬十毛」「文化十年大月……」		
01723	奉納絵馬覚え（卷子）	1	「大工博多／清七孫／川上七郎衛門／惟重／于時享和二年二月吉辰／水野孫市郎直和／画師／谷周平盛昌／于時天保三壬辰九月吉辰／水野市太郎／画師／齋藤秋圃／筆者／菅原信瑞／此繪額土佐氏之圖而世ニ 模寫者四面殆百余年／今茲債予重模寫焉□／微其圖毫加不私意矣／天保三壬辰九月吉辰／齋藤秋圃画并誌／菅原信瑞書」		
01726	秋圃あて書簡（断片）（墨書）	3通	「七月□□日／片□□丸／齋藤秋圃様／瑞五郎様／東暉菴」「黒田犬万□／長（花押）／五月三日／甲斐守様」		

表3 「焔圃」印

番号	作品名	数量	墨書 ※備考	制作年	作者
00067	鶴図	1	（裏面）「齋藤藏」「焔圃」（朱文方印）		
00105	中国人物図（仙人）	2	色注「肉色」「白」（裏面）「焔圃」（朱文方印）		
00193	馬図	1	印章「焔圃」（朱文方印）「一」「二」「三」「四」「五」「六」		
00605	あひる図	1	印章「焔圃」（朱文方印）		
00801	シュロ図	1	「焔圃」、色注「此所書百六曲」「葉三六」「シヤノ曲」「土具」		
01642	鍾馗図冊（一部淡彩）	1	（表紙）「葵所藏」「鍾馗大長」「焔圃」（朱文長方印）、（裏面）「焔圃」（朱文長方印）※紙数11枚		齋藤秋圃
01649	植物図冊（一部淡彩）	1	「十一月写」「三百三十三番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）「八月初」「八月十日紅」「八月末蕎麦花」「己十二月廿九日生寫」「焔圃」（朱文長方印）「八月中旬」「八月」「紫葉(マ)花」「八月中旬」「四月一日」「三月廿八日」「二月下」「正月初」「四月中旬」「松根土者スミ／曲書」「正月七日寫」「十二月寫／川柳」「八月」「カヤヅリ草」「紅ウコン」「木樨七月初」「七月葉草／花エン具」※紙数51枚		齋藤秋圃カ
01733	長崎人名録（墨書）	16	「□合町 山口寅太郎／母 引田ヤ妙貞／桔梗屋舎十／中筑後ヤ西田平□衛門…（以下略）」、（裏面）「焔圃」（朱文長方印）		齋藤秋圃

表4 「土筆／翁」印

番号	作品名	数量	墨書 ※備考	制作年	作者
00025	高士図	1	（裏面）「百三十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00037	北計星図	2	（裏面）「貳百四十九番／齋藤藏」「北計星圖」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00041	人物図（男性）	1	（裏面）「貳百二十五番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00071	中国人物像	1	（裏面）「貳百五十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00074	鹿図	3	（裏面）「辰七十五番齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00082	高砂図（淡彩）	2	（裏面）「和ノ／貳百貳十貳番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00088	寿老人図	1	「立圃書」「松／翁」（描印）、（裏面）「貳百七十五番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00091	耕作図	1	「呉春 □（描印一顆）」「文鳳 □（描印一顆）」「四百四十六番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00104	柳図	1	（裏面）「百七十三番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		

00106	高士図	5	色注「朱」「アサキ」「スミ」「アイ」、(裏面)「千五百十四番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00108	高士図	2	色注「中スミ」「白」「百六」「キ」、(裏面)「貳百三十九番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00123	兎図	1	(裏面)「四百四十貳番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00124	子犬図	1	(裏面)「四百七十四番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00128	松葉図	1	(裏面)「三百六十貳番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00142	神仙図	3	色注「アイ」「ニヤ」「白」、(裏面)「百九十三番 齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00144	匈奴像	1	「匈奴單字(マ)／王照君」、(裏面)「百貳十五番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00147	寿老人図	2	色注「アイロウカケ」「地紋中焼」「紫」、(裏面)「い印」「貳百三十番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)、白文朱方印一顆あり		
00157	神仙図	2	(裏面)「百八十九番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印) ほか		
00179	綱引図 (淡彩)	3	色注「アイ」「後アイ□黄」「アイ色」「者色」、(裏面)「二十四番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00180	市中風俗図	2	(裏面)「百番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00187	鳥図	1	「三百廿番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00199	波図	1	(裏面)「十二番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱文方印)		
00205	馬洗図 (淡彩)	2	(裏面)「辰八十四番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00217	高士図 (淡彩)	4	「越前守□□□」、(裏面)「貳百十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00218	月夜山水図	3	色注「アイ曲」「月泥曲」、(裏面)「五百五十壺番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00228	高士図	3	色注「朱」(裏面)「四百十八番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00231	中国美人図	2	(裏面)「九千五十番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00234	墨梅図	3	(裏面)「懸ケン／五百七十四番／三枚の内／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00243	雪中松図 (淡彩)	1	「貳百八十七番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00244	中国美人図	3	(裏面)「百九十番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00247	中国武人図	2	(裏面)「貳百六十九番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00253	猿図 (淡彩)	1	(裏面)「四百三十八番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00254	猿図 (淡彩)	1	(裏面)「四百三十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00257	鯉図	2	(裏面)「四百九十貳番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00262	洋犬図	2	(裏面)「四百四十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00267	敬器図	4	「此中……」「□ (描印一顆)」、(裏面)「貳百四十貳番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00275	布袋大黒図	1	(裏面)「貳百七十番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00316	魚図	1	「五百壺番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00320	猪図 (一部朱筆)	1	「二月寫／葵蔵」、(裏面)「四百五十七番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00342	きじ図 (淡彩)	17	色注「三六」「ウ」「一面ニ草汁」「スミ書」「地スミ曲／草曲」「台ラン／草汁ウツ」「筋／草汁」「朱エン」「花丹地□／朱曲」「コン王日／カケ」「エニツ、キ」「地エニシ／同曲／白キ□／白彩曲」「地百六」「三」「三六曲」、(裏面)「三對之内／幹五百七十貳番／齋藤蔵」「土筆／翁」白文朱方印一顆		
00347	鹿図	1	色注「カタハ毛」「紫大者」、(裏面)「四百三十壺番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00348	犬、ネズミ図	1	「白カン鳥足ユヒ其至テシシ／カン」、(裏面)「四百四十壺番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00351	七賢人図	3	(裏面)「百九十八番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00353	鍾馗図	3	(裏面)「貳百五十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00365	騎馬武者図 (淡彩)	1	(裏面)「膳ノ五百貳十七番／三枚之内／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00366	三番叟図 (淡彩)	1	「五百三十四番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00370	子犬図	1	(裏面)「四百五十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		
00373	犬図	1	(裏面)「四百七十五番／齋藤蔵」「土筆／翁」(白文朱方印)		

00393	雪梅図	1	（裏面）「懸／五百十五番／三對内／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印、逆印）		
00401	大根鼠図	5	（裏面）「四百四十五番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00431	雉子図	4	「十八枚／上二枚長シ」、色注「金さし／二尺九寸」「シヤ曲」「エン／スミ曲」「アイ入白彩付立」「洞流毛カキ」「此辺エンスミ曲／者土地り」「朱エン曲／同ツ、キ」「眼ノ内／シヤ」、（裏面）「葵藏／三百八十五番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00441	竹虎図	13	「四百八十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00451	中国故事図（淡彩）	1	（裏面）「百七番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00452	猿図（淡彩）	2	（裏面）「四百六十貳番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00461	寿老人図	2	色注「アイ」「土」「白」、（裏面）「百六十五番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00466	鶏図	3	「…□□（描印二顆）」、（裏面）「齋藤藏」「三百十八番 齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00476	子犬図	1	（裏面）「四百六十四番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00486	舞楽図	1	（裏面）「百二十三番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）、「立八寸／横壹尺四寸六分／各二枚嶋原大變□□圖／同寸法紙見斗／聯二ツ／嶋原大變／紙置町白人之□」		
00487	高士図	2	（裏面）「百九十七番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00488	松林図（淡彩）	2	（裏面）「三百五十貳番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00502	浦島太郎図（淡彩）	3	色注「白六」、（裏面）「十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00511	魚介図	3	（裏面）「四百五十三番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00530	舟遊び図	1	（裏面）「五十六番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00544	三酸図	2	色注「スミ」「アサミ」、（裏面）「百貳十四／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00557	鹿図	1	（裏面）「四百七十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00563	神仙図	4	（裏面）「貳百七〇／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00580	墨梅図	3	（裏面）「三百四十七番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00582	馬図	3	（裏面）「文化丁卯冬／葵氏」「四百六十壹番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00585	狸図（淡彩）	1	「右上二半月有」（裏面）「百十八」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00587	掛幅縮図（淡彩）	1	（裏面）「三百四十番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00603	達磨図	1	（裏面）「百三十五番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00607	高士図	1	色注「クン」（裏面）「百十三番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00608	亀図（淡彩）	1	（裏面）「五百五十六番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00612	波頭図	1	（裏面）「四百九十五番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00613	高士図	2	（裏面）「九十七番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00628	桃に小禽図	2	（裏面）「三百八十七番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00638	椿図	1	（裏面）「三百八十貳番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00644	恵比須図	2	色注「白」、（裏面）「貳百七十八番」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00649	恵比須図	1	画賛和歌あり（略）、「安永戊戌冬至／井子歳宗□」（裏面）「貳百七十四番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00657	豚図（淡彩）	3	色注「白彩ノ毛書入る」、（裏面）「参番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00663	神仏図	1	（裏面）「貳百六十壹番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00673	鹿図	4	（裏面）「四百五十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00695	蝦蟇図	1	（裏面）「貳百貳十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00712	六歌仙図（淡彩）	2	色注「シヤスミ」、（裏面）「□六十九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00727	山樵帰路図（淡彩）	4	（裏面）「貳百四十八番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00728	山水図（淡彩）	9	（裏面）「廿九番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00732	松に小禽図	1	（裏面）「三百七十七番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00736	武将図	1	（裏面）「八十番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00743	花鳥図（淡彩）	2	色注あり、（裏面）「四百十壹番／齋藤藏」「土筆／翁」（白文朱方印）		

00746	鯉図（淡彩）	2	（裏面）「五百十八番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00791	神仙図	3	（裏面）「葵所蔵」「貳百八番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00795	囲碁図（断片）	1	（裏面）「百八十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00797	神仙図	2	（裏面）「百八十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00798	武人図（断片）	2	「弘昭図」「四尺三寸」「壹尺七寸」「此下七寸」、色注「コン／雲元」「白」「エン」「金」「コン」「アサキ」「白上六」「白」「エン曲」「丹」「」（裏面）「貳百六十八番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00852	高僧図（断片）（淡彩）	1	「蓬山ツ・レ」、掛幅略図色注「子ツミ」「月」「モ□」、（裏面）「百四十五番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00857	笹図（断片）	1	（裏面）「三百三十貳番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00870	花卉図（断片）	7	色注「ツヤ」、（裏面）「五百三十番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00904	鶏図	1	（裏面）「三百廿四番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00908	西王母像（断片）（淡彩）	4	（裏面）「齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00916	山水図	9	（裏面）「辰六十一番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
00977	漁師図	1	色注「アイ」「紋アイ」、（裏面）「二十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01001	山水図	1	（裏面）「百四十九番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01036	薄図	1	（裏面）「五百六番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01081	雪松図（断片）（淡彩）	1	（裏面）「三百十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01100	寿老人図（断片）	1	（裏面）「五百五十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01103	雑画（断片）	1	「十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01136	鹿図	2	（裏面）「四百貳十九番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01138	高士図	1	（裏面）「百貳十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01142	竹図（断片）	1	（裏面）「三百九十番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01185	羅漢図（断片）	1	（裏面）「辰六十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01213	人物図（断片）	1	色注「龍文記」「朱」、（裏面）「十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01226	墨書（断片）（墨書）	1	「百番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01265	朝顔図	1	「□□（描印二顆）」、（裏面）「土筆／翁」（白文朱方印）		
01285	雑画（断片）	1	（裏面）「三百廿七番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01309	鳥図（断片）（淡彩）	1	（裏面）「三百八十八番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01313	鳥図（断片）	1	（裏面）「三百五十七番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01319	寿老人図（断片）	1	（裏面）「土筆／翁」（白文朱方印）		
01337	亀図（淡彩）	1	「三百六十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）「徹山」「□」（描印）		
01381	山水図（断片）	2	（裏面）「八十四番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01390	藤に小禽図（断片）	1	（裏面）「三百廿壹番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01483	孔子図	2	色注「スミ」、（裏面）「貳百六十五番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01610	中国人物図（断片）	1	「貳百五十八番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01617	山水図（淡彩）	9	「・・□□（描印二顆）」、（裏面）「五百六十番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）		
01649	植物図冊（一部淡彩）	1	「十一月写」「三百三十三番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）「八月初」「八月千日紅」「八月末蕎麦花」「己十二月廿九日生寫」「烱圓」（朱文長方印）「八月中旬」「八月」「紫葉（マ）花」「八月中旬」「四月一日」「三月廿八日」「二月下」「正月初」「四月中旬」「松根土者スミ／曲書」「正月七日寫」「十二月寫／川柳」「八月」「カヤツリ草」「紅ウコン」「木槿七月初」「七月葉草／花エン具」※紙数51枚		齋藤秋圃カ
01651	花卉冊	1	（表紙）「江州奥（ヲキ）ノ嶋 茄霊（ムベ）芝簿／十月一日禁裏ニ上ル」「土筆／翁」（白文朱方印）、「花柑」ほかの墨書あり、色注あり※紙数15枚		

01671	漢画縮図	1	（表紙）「五百六十七番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）「紙頁三拾五枚／齋藤蔵」「紙数三〇〇枚」「漂母飯信」「洗玩更酌」「清溪閣茗」「倣陳白陽」「人多混描」「王羲之」「倣水壺道人」「減華描法」「倣維包／山」「赤壁」「羅浮春夢」「温公」「尋梅」「晋唐寅」「孟光」「元晝」「四睡」「酒僊」「群盲評古」「瑤池山使」「趙飛燕」「顔秋月成圖」「雨宝神」「徽宗帝 乳犬圖」「吳小仙」「李士達」など※紙数35枚		
01698	雜画冊（淡彩）	1	（主なもの）「五ツ沙／五月廿一日寫／クイナ」「假籠之図／十月朔日江州奥之嶋ヨリ／禁裏献上」など、「三百三十壹番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）、「三百六十六番／齋藤蔵」「土筆／翁」（白文朱方印）、色注あり※紙数20枚		

表5 「梅圃蔵」・「梅／圃」印

番号	作品名	数量	墨書 ※備考	制作年	作者
00005	布袋図（墨書）	5	「天保二卯秋七月写／千三十九番／齋藤梅圃蔵」	天保2年	齋藤梅圃
00076	秋の図	4	「多ね」（裏面）「秋の図／梅圃蔵」		齋藤梅圃
00096	関羽図	2	（裏面）「イノ／千八十番 齋藤梅圃」「韋行」（朱文逆印）印章二顆		齋藤梅圃
00097	中国美人図	3	（裏面）「ろノ 三十三番 齋藤／梅圃蔵」「梅／圃」（白文朱方印）		齋藤梅圃
00126	神仙図（淡彩）	2	「□」（描印一顆）、（裏面）「うノ四十九番／梅圃蔵」「梅」「圃」（白文朱方印）		齋藤梅圃
00136	松鶴図	9	（裏面）「千九番／文政十四ノ年卯ノ春／松二千バ鶴 齋藤梅圃」「梅圃」（白文朱方印）※文政14年＝天保2年	文政14年	齋藤梅圃
00152	布袋図	1	（裏面）「十二枚之内／梅圃蔵」「十五枚之内／梅圃」		齋藤梅圃
00153	布袋図	1	（裏面）「よノ／三百十市番／齋藤梅圃蔵」、朱印あり		齋藤梅圃
00156	山鳩図	2	色注「白」「エン／六」、（裏面）「梅圃蔵」		齋藤梅圃
00172	鹿図	3	（裏面）「春三月日／梅圃蔵」		齋藤梅圃
00206	虎図（淡彩）	7	（裏面）「フノ／百番 齋藤梅圃蔵」朱印一顆		齋藤梅圃
00207	唐武人図	3	（裏面）「ほノ／六十六番／齋藤梅圃蔵」「梅圃」（白文朱方印）「六十番／齋藤梅圃蔵」		齋藤梅圃
00213	山水図（淡彩）	4	「雍齋」「□」（描印一顆）、（裏面）「梅圃／梅圃」		齋藤梅圃
00214	松鶴図（淡彩）	5	（裏面）「三枚之内／梅圃蔵」		齋藤梅圃
00215	松鶴図（淡彩）	3	（裏面）「千六番／文政十四年卯ノ春□寫／齋藤梅圃蔵／松二鶴」「梅圃」（白文朱方印）	文政14年	齋藤梅圃
00236	梅図	4	「此紙梅／極彩色二面／御座候上天満宮／御うた候□□／此通御承知可有下候□□此圖／ハ其間……／い上」、（裏面）「梅圃蔵」		齋藤梅圃
00325	墨梅図	10	（裏面）「葵蔵所／梅圃」		齋藤梅圃
00326	瀬渡し図（淡彩）	5	「ヤナギ」色注「草曲トツ、キ」、（裏面）「梅圃／齋藤福岡より」		齋藤梅圃
00338	海老図（淡彩）	2	（裏面）「梅圃蔵」		齋藤梅圃
00341	茶屋図（淡彩）	4	（裏面）「天保二卯ノ春二月」「□」白文朱方印一顆「二枚之内／齋藤梅圃蔵」「梅圃」（白文朱方印）	天保2年	齋藤梅圃
00362	布袋図	2	（裏面）「千番／齋藤梅圃蔵」		齋藤梅圃
00367	梅に鳥図（淡彩）	3	（裏面）「うノ四百二十番／齋藤梅圃」「梅圃」（白文朱方印）		齋藤梅圃
00371	冬景山水図	1	（裏面）「ゆノ五十二番」（「韋行」朱文逆印）一顆、「齋藤梅圃蔵」「梅圃」（朱文方印）		齋藤梅圃
00383	中国武将図	5	色注「金」「白」、（裏面）「天保四年／秋八月四枚之内／梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
00407	中国武人図	3	（裏面）「ロノ□」（朱印一顆）八十七番／齋藤梅圃蔵」朱印一顆		齋藤梅圃
00414	騎馬武者図	3	（裏面）「天保二卯ノ夏四月／十八番 齋藤梅圃蔵」	天保2年	齋藤梅圃
00420	墨梅図	3	「雪湖筆」色注「スミ」、（裏面）「梅圃」		齋藤梅圃
00422	高士図	2	「梅圃蔵」		齋藤梅圃
00424	菊慈童図（淡彩）	4	色注「白」、（裏面）「いノ（朱文方印一顆）齋藤梅圃蔵」朱文方印二顆		齋藤梅圃
00439	双鶴図（淡彩）	2	（裏面）「文政十四年卯ノ春／千十一番／齋藤梅圃蔵／春松二鶴」、朱印一顆「秋圃」、「秋圃」「秋」「秋」「梅」「梅」「梅」「梅」ほか	文政14年	齋藤梅圃
00453	鷺図（淡彩）	2	（裏面）「天七」「梅圃蔵」		齋藤梅圃
00472	中国故事図	2	色注「朱」「アサキ」「クロ」、（裏面）「志ノ（朱印一顆）／五十一番／齋藤梅圃蔵」「□」（朱文方印）、「六十一番／齋藤梅圃」		齋藤梅圃
00475	松に鷹図（淡彩）	4	（裏面）「百三十七番（朱印一顆）／齋藤梅圃蔵」「齋藤相常カ」「齋藤		齋藤梅圃

00497	紅葉に鹿図	4	(裏面)「天保二卯秋八月寫／千二十九番／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00498	高砂図	8	(裏面)「千三番／齋藤梅圃」		齋藤梅圃
00507	中国人物図(淡彩)	3	(裏面)「卯ノ／九十番(朱文方印一顆)／齋藤梅圃藏 □□(朱文方印二顆)」		齋藤梅圃
00512	落図(淡彩)	2	(裏面)「梅圃藏」		齋藤梅圃
00528	龍図	9	(裏面)「ぬノ／四百三十番／齋藤氏」「梅圃」(白文朱方印)		齋藤梅圃
00541	舟行図	3	(裏面)「秋秋秋／秋圃 梅圃藏」		齋藤梅圃
00551	花鳥図(淡彩)	7	(裏面)「天保二ノ卯六月寫／千廿一番／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00552	柳に鷹図(淡彩)	2	(裏面)「文政十四年卯ノ春／千十三番／齋藤梅圃藏」「梅圃」(白文朱方印)「春／ヤナギニ鷹」	文政14年	齋藤梅圃
00554	宝舟図	1	(裏面)「千三番／齋藤梅圃藏」		齋藤梅圃
00570	菊図	8	色注「白」、(裏面)「天保二卯歳／秋七月寫／千廿一番／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00599	陶淵明帰去來図(淡彩)	10	「壬子ノ嘉平月」、(裏面)「文政十一年子ノ二月寫／ウノ(朱印一顆)千一番／齋藤梅圃藏」「梅圃」(白文朱方印)、「尾五百十三番／陶淵歸去來圖／齋藤藏」	文政11年	齋藤梅圃
00659	鹿図(淡彩)	8	(裏面)「天保二卯正月／千十五番／齋藤藏」「梅圃」(白文朱方印)「春／ゆずりはニ鹿」	天保2年	齋藤梅圃
00680	海浜鶴図(淡彩)	3	(裏面)「八十番／齋藤梅圃藏」		齋藤梅圃
00691	双鳩図	1	(裏面)「梅圃藏」		齋藤梅圃
00706	虎図	5	(裏面)「天保二卯春二月／三枚之内／齋藤梅圃藏」「梅圃」(白文朱方印)	天保2年	齋藤梅圃
00707	富士に鶴図(淡彩)	1	(裏面)「梅圃写」		齋藤梅圃
00713	大黒図	1	(裏面)「梅圃藏」「梅圃」(白文朱方印)		齋藤梅圃
00752	物語図(淡彩)	6	「今上」「今上」(裏面)「齋藤福五郎分(削字)／梅圃写」		齋藤梅圃
00753	山水図	4	(裏面)「ゑノ／六十三番 □(朱印一顆)／齋藤梅圃藏 □(朱印一顆)」		齋藤梅圃
00765	高士図(淡彩)	2	「…□□(描印二顆)」、(裏面)「ちノ(朱印一顆)／三十五番／梅圃藏」「梅圃」(白文朱方印)		齋藤梅圃
00817	寿老人図(淡彩)	3	「…□(描印一顆)」、(裏面)「天保三辰春日寫／千十七晩／齋藤梅圃藏分」	天保3年	齋藤梅圃
00827	雀図(淡彩)	3	(裏面)「ねノ／三百三十番／齋藤梅圃藏」「梅」「圃」(白文朱方印)		齋藤梅圃
00845	瓜に雀図(断片)(淡彩)	4	「梅圃 □(描印一顆)」、(裏面)「十二枚之内／齋藤梅圃藏」		齋藤梅圃
00863	親子鹿図	3	(裏面)「天保三年壬辰冬十一月／藤梅圃藏」	天保3年	齋藤梅圃
00867	中国武人図(断片)	7	(裏面)「けノ／十九番／齋藤梅圃藏」「梅」「圃」(白文朱方印)		齋藤梅圃
00873	兎図(断片)(淡彩)	2	(裏面)「梅圃寫」		齋藤梅圃
00874	虎図(断片)	4	(裏面)「天保二卯春二月／三枚之内／齋藤梅圃藏」「梅圃」(白文朱方印)	天保2年	齋藤梅圃
00879	高士図(断片)(淡彩)	1	(裏面)「天保二卯春三月寫／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00881	恵比須図(断片)	1	(裏面)「梅圃藏」「藏」「藏」「藏」		齋藤梅圃
00886	高士図(断片)(淡彩)	2	(裏面)「ろノ(朱印一顆)／四十二番／齋藤梅圃藏」「梅」「圃」(白文朱方印)		齋藤梅圃
00915	墨竹図(断片)	1	(裏面)「文政十二丑六月廿二日寫／百九十九番／齋藤梅圃藏」「梅圃」(白文朱方印)	文政12年	齋藤梅圃
00925	鹿図(断片)(淡彩)	3	(裏面)「拾二枚之内春図／天保二卯秋八月寫／千廿七番／齋藤梅圃藏」	天保2年	齋藤梅圃
00994	山中陶器製作図(断片)(淡彩)	1	(裏面)「三月三日／天保三年／辰ノ春日寫／千二十四番／齋藤梅圃藏」	天保3年	齋藤梅圃
01047	松図	2	(裏面)「天保四年／癸巳(壬)秋九月／梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
01053	物語図(断片)(淡彩)	1	(裏面)「藏」「梅圃」朱印あり		齋藤梅圃
01056	牡丹図(断片)	1	(裏面)「二枚之内／千二番／齋藤梅圃」		齋藤梅圃
01083	西王母図(断片)	1	色注「丹」、(裏面)「天保四年／秋八月四枚之内／梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
01094	高士図(断片)	1	「…□(描印一顆)」、色注「白」(裏面)「梅圃寫」		齋藤梅圃

01117	梅に鶯図（断片）（淡彩）	1	「葵梅圃蔵」「梅圃／之印」（白文朱方印）		齋藤梅圃
01144	竹図（断片）	1	（裏面）「三枚之内／梅圃蔵」		齋藤梅圃
01214	山水図（断片）	1	（裏面）「天保五年甲午六月大年寫之／藤梅圃寫之書」	天保5年	齋藤梅圃
01377	山図（断片）	1	「天保二卯春二月 □（朱印一顆）／二枚之内／齋藤梅圃蔵」「梅圃」（白文朱方印）	天保2年	齋藤梅圃
01393	中国武人図（断片）（淡彩）	1	（裏面）「□枚之内／齋藤梅圃蔵」		齋藤梅圃
01395	山図（断片）	1	「・・□（描印一顆）」、（裏面）「天保四年／秋九月／藤梅圃寫」	天保4年	齋藤梅圃
01397	梅に小禽図（断片）	2	（裏面）「梅圃蔵」		齋藤梅圃
01420	山水図（断片）	1	（裏面）「千十三番／齋藤梅圃蔵」		齋藤梅圃
01428	人物図（断片）（淡彩）	1	（裏面）「よノ／三百二十番／齋藤梅圃蔵」「梅」「圃」（朱文方印）		齋藤梅圃
01438	美人図（断片）	3	色注「金」「白」（裏面）「千六百番／齋藤梅圃蔵」		齋藤梅圃
01487	梅に鶴図（断片）	4	（裏面）「春／梅ニ鶴」「文政十四年春 枚之内／千十番 齋藤梅圃蔵」「梅圃」（白文朱方印）	文政14年	齋藤梅圃
01493	断片	1	（裏面）「八百十番／齋藤梅圃蔵」		齋藤梅圃
01634	燕図	1	（裏面）「齋藤梅圃蔵」		齋藤梅圃
01635	画手本（一部淡彩）	1	（表紙）「画手本／葵氏」、（裏面）「三十番／梅圃蔵」※紙数6枚		齋藤梅圃
01636	三福神図	1	（裏面）「安政五戌年秋七月七夕／梅圃写」	安政5年	齋藤梅圃
01674	名人集錦冊	1	（表紙）「名人集錦／乙未秋日／梅圃写」※紙数9枚	天保6年	齋藤梅圃
01719	漢詩稿（墨書）	9	（卷末）「天保三年／壬辰ノ二月吉日／齋藤梅圃分／扇子」	天保3年	
01724	古剣縮図（淡彩卷子）	27	墨書あり、（卷末）「右／男山八幡宮寶蔵／採桑老下鞆圖／葉袋尋常之如也／文久二年壬戌夏四月末日／写西肥平田村／葵梅圃所蔵」	文久2年	齋藤梅圃

表6 「韋行」

番号	作品名	数量	墨書 ※備考	制作年	作者
00096	関羽図	2	（裏面）「イノ／千八十番 齋藤梅圃」「韋行」（朱文逆印）印章二顆		齋藤梅圃
00135	鳥図	1	印四顆あり「韋行／之印」「秋圃？」		
00371	冬景山水図	1	（裏面）「ゆノ五十二番」朱印（「韋行」逆印）一顆、「齋藤梅圃蔵」「梅圃」（朱文方印）		齋藤梅圃
01250	松に孔雀図（断片）	5	（裏面）「百十番／文政十二年／丑ノ六月吉日／齋藤秋圃（「韋行」の逆印四顆）」	文政12年	

表7 「韋光」

番号	作品名	数量	墨書 ※備考	制作年	作者
00048	中国武人図	1	（裏面）「廿八番韋光」		韋光
00332	囲碁図	3	（裏面）「廿一番韋光」		韋光
00447	中国武人図（淡彩）	1	（裏面）「六拾壹番韋光」		韋光
00449	秋景双鹿図（淡彩）	4	（裏面）「廿二番韋光」		韋光
00458	高士図（淡彩）	3	（裏面）「五番韋光」		韋光
00514	山水図	1	（裏面）「十五番韋光」		韋光
00636	墨竹図	3	「□（描印一顆）」「癸酉仲冬閑窓□典／必東散人寫□□（描印二顆）」、（裏面）「七十四番韋光」		韋光
00653	舎人図（淡彩）	1	（裏面）「廿三番韋光」		韋光
01276	中国美人図（断片）	1	（裏面）「六十六番韋光」		韋光
01419	山水図（断片）	1	（裏面）「四十九番韋光」		韋光
01517	龍図（断片）	2	（裏面）「廿五番韋光」		韋光



図3 陶淵明帰去来図



図1 天満宮写生帖



図6 鍾馗図冊



図2 天満宮写生帖



図7 植物図冊

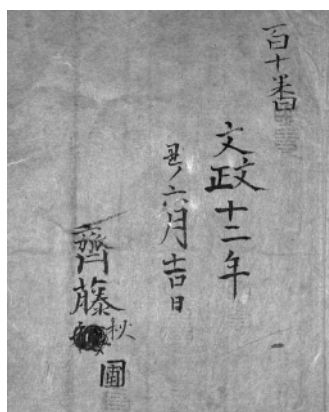


図4 松に孔雀図(部分)

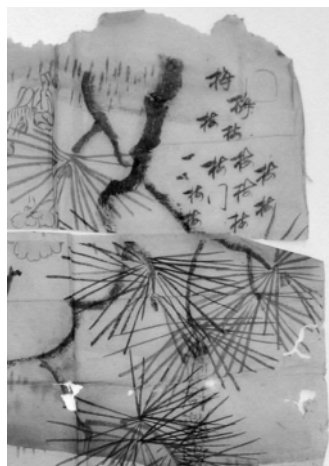


図5 双鶴図(反転・部分)



図8 市中風俗図（土筆翁印）



図9 中国武人図（韋光）



図11 遊行図（部分） 福岡市博物館蔵



図12 花鳥図裏面（遊行図下絵・部分）



図10 馬上人物図（本画と下絵）
本画（左）は福岡市博物館蔵



図13 遊行図（画稿）



図14 歌仙図（休息歌仙図）



図15 休息歌仙図（山中社寺図）



図17 休息歌仙図



図16 中務図（休息歌仙図）

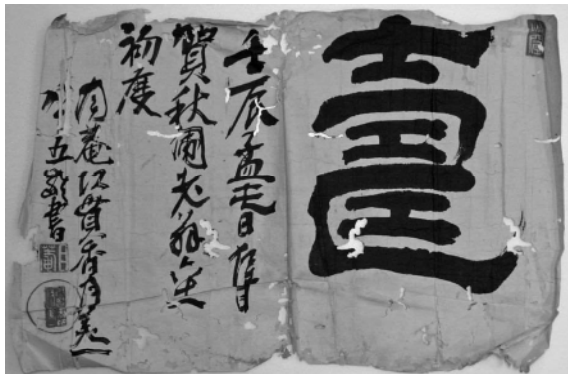


図19 「寿」一文字



図18 子犬図（左00476 右00609）

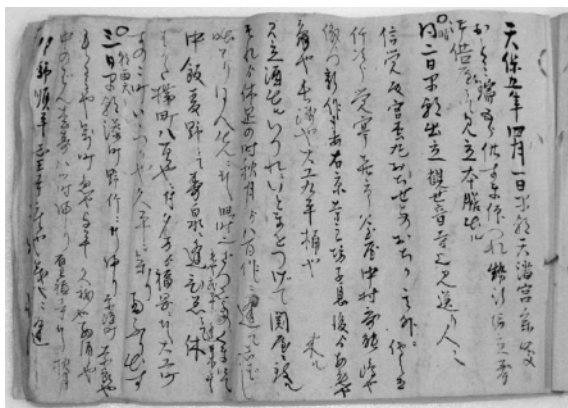


図21 京遊日記

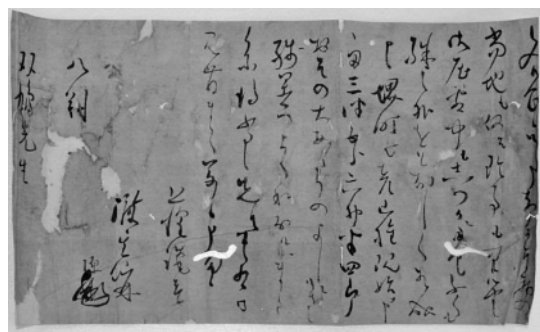


図20 書簡（渡辺仙林から双鳩先生宛）

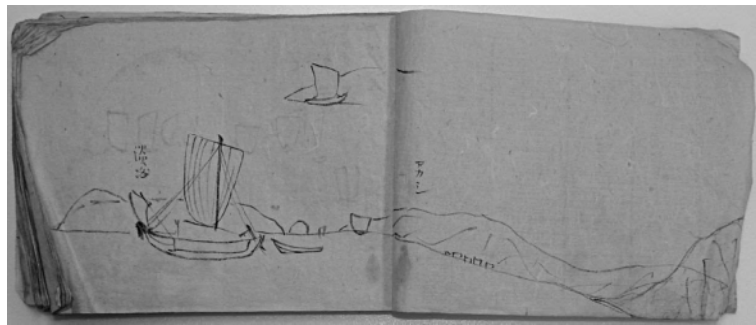


図22 瀬戸内写景図

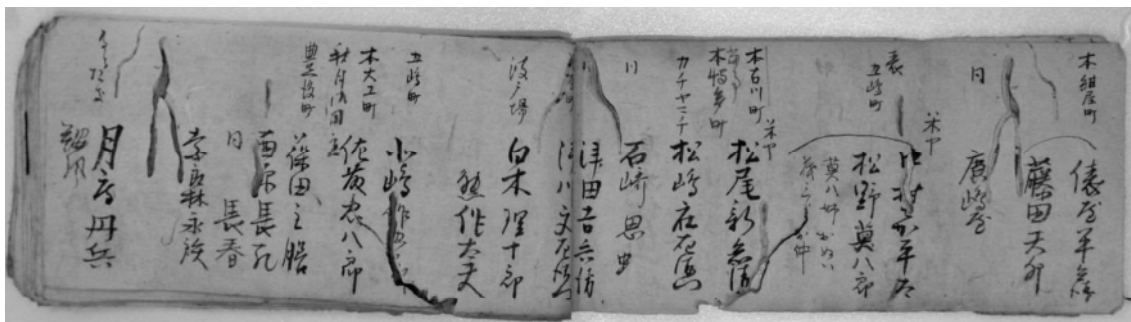


図23 長崎人名録